

韓国の初級日本語教育と待遇表現

守屋美佐子*

|| 차례 ||

- 1.はじめに
2. 初級日本語教科書における敬語
3. 初級日本語修了者の待遇表現の運用力
4. 結語

[日文抄録]

日本語における待遇表現の指導とは人間関係を円滑に行なうための敬語使用のみならず、表現、それに伴う行動、習慣、あいさつなどを含めた広い意味での言語行動すべてに対する指導である。韓国語と日本語は文型構造の類似性により、韓国人学習者の日本語習得は他の外国人学習者に比べて早い反面、特に待遇表現において母語の干渉を受けやすく、誤解を引き起こす原因ともなっている。本稿では韓国の初級日本語教育における待遇表現指導の問題点を初級教科書の敬語の扱い方を中心に指摘するとともに、日本語能力試験N1、N2に合格した学生へのアンケート調査をもとに初級修了者の待遇表現の運用力の問題点を指摘した。待遇表現の指導を中級以降の課題とするのではなく、初級の初期段階から段階的に指導するための教材開発、授業の工夫が求められている。

日文主題語：待遇表現, 敬語, 韓国人学習者, 初級日本語, 教科書, コミュニケーション, 日本語能力試験

1. はじめに

* 慶南大学校 日語教育科 助教授, moriyamisako@yahoo.co.jp

日本語教育において「待遇表現」というと一般的に敬語を指す場合が多い¹⁾が、待遇表現の指導とは人間関係を円滑に行なうための敬語使用のみならず、表現、それに伴う行動、習慣、あいさつなどを含めた広い意味での言語行動すべてに対する指導だといえよう。文法的に正しい表現であっても待遇表現が不適切な場合には相手の感情を損なうことにもなりかねない。待遇表現の適切な使用を通してのみ、聞き手の感情を害することなく円滑なコミュニケーションをなすことができるのである。

韓国語と日本語は文型構造がよく似ており、活用(動詞・形容詞)の語形変化と助詞が文法上最も大切な要素となっている。そのため「日本語はやさしい」と認識している韓国人も多く、実際、他のアジア系の外国人や欧米の外国人に比べて習得速度が速いことも事実である。しかしその反面、いつまでも母国語の干渉を受けやすいという側面もある。その中でも待遇表現は「自然な日本語らしい日本語」の習得、円滑なコミュニケーション達成のためには適切な指導が必要な部分である。文法運用能力の不足というより、日本人特有のメンタリティーと関わる表現の間違いが誤解を引き起こす原因ともなりかねないからである。

もちろん待遇表現は地域や社会環境のような空間的な要素や時代・年齢など時間的な要素によっても異なりうる。しかも本質的に文化的、社会的、個人の心理的な特徴と深く関わる部分でもあるので、日本語学習者に待遇表現のいかなる部分をどのように教育すればいいかという問題は決して単純に答えを出すことのできるものではない。

現在、敬語が合理化、簡素化の方向に向かいつつあることは認めざるをえない。家庭における子供から祖父母、父母への敬語はもちろん学生から先生への敬語なども急速に減少している。しかしビジネス社会ではむしろ丁寧な話し方をますます強調する傾向にある。

本稿では特に韓国の初級日本語教育における待遇表現指導の問題点を指摘するとともに、日本語能力試験N1、N2に合格した韓国学生に対するアン

1) 待遇表現のひとつである卑語は、人をののしったり、馬鹿にしたりする表現なので、学習対象にはならない。

ケートを基に初級修了者の待遇表現の運用力の問題点を指摘し、待遇表現指導をどのように行なうかに対する提言を行なおうとするものである。

2. 初級日本語教科書における敬語

2.1. 待遇表現を用いる能力

学習者がコミュニケーションの手段として日本語が話せるようになることを望む場合、待遇表現を度外視することはできない。コミュニケーションを前提とするということは、当然そこに「人間関係」が存在するからである。『日本語教育事典』によれば、待遇表現は円滑な関係を保つための言語的手段であり、社会生活の潤滑油だ²⁾としているが、待遇表現とは人間関係への配慮に基づいた言語表現だということができる。しかし語彙の適切さ、文法的な正しさ、音声面の適切さなど、言語的表現だけではなく、身ぶり・手ぶり・表情など非言語的表現の適切さも問われ、待遇表現を用いる能力は総合的な能力だといわざるをえない。しかも、そうした各方面の能力が備わったとしても、いつ、いかなる場面で、どんな相手に対してどのような待遇表現を用いるのかという場面の性格に対する判断力も備えなければ不十分なのである。

日本語の待遇表現を教える場合、学習者がどんな場面でどんな人を相手に日本語を用いるか、ある程度の想定を行なう必要があるが、各場面すべてを想定しつくすことはできないのであるから、場面に応じた基本的な能力を養うことが必要になる。この基本的な能力とは丁寧な文末表現ができるとか、尊敬表現が使えるというような能力ではない。バルバラ(1997)は習得は外面的な色直しではなく、素質的な変化であり、単純で自動的なルールは学習者の価値観体系に何の変化ももたらさない³⁾と述べているが、待遇表現の指

2) 日本語教育学会編, 『新版日本語教育事典』, 제이앤시, 2006, pp.198

導は価値観を理解する能力の指導だということができる。

待遇表現指導というと単に敬語指導ととらえ、中・上級の問題だと考えやすい。初級では「です・ます体」と「普通体」を教える程度で十分だという考えからくるものと考えられる。また文型指導を中心とする初級教育においては待遇表現指導はむしろ文型定着を妨害する要因としてとらえ、できれば避けて通ることにもなりかねない。初級において母語話者並みの待遇表現の自然さを求めるのには問題があるが、待遇表現がコミュニケーションにおける重大なポイントである以上、初級の段階から段階的に体系的に教育していく必要性はあるのである。

2.2. 日本の初級日本語教科書における敬語の扱われ方

日本語教育において、日本語が第二外国語として教えられる場合、どのようなシラバスに基づくにせよ、ある日本語教科書を用いて一定の言語形式を提出しながら行なわれる。川口(1987)は、基本的に文型シラバスに基づいて作成された4種の初級教科書⁴⁾を対象に、敬語形式の分布を調査し、その特徴を述べているが、その4種の教科書のうち、敬語形式の最も多く現われる「特定の課」が敬語を学習項目の中心にしており、解説、練習等も当該の課で扱われていると指摘している。

ところで待遇表現の習得が形式や意味の習得に限られたものであるならば、このような傾向は大きな問題とならないが、運用の習得という次元まで広げた場合には、指導上、適切な配慮が施されなければ、初級といえども一括集中的な敬語形式の提出には問題があるといわざるをえない。

3) バルバラ・ピッツィコーニ、『待遇表現から見た日本語教科書』、くろしお出版、1997、pp.185

4) 国際交流基金編『日本語初歩 I・II』、凡人社、1981、吉田・倉谷著『あたらしい日本語』、学習研究社、1975、早稲田大学語学教育研究所編『外国人留学生日本語教科書初級』再訂版、1978、青木他著『日本語の基礎構造』、大修館書店、1984

一方、渡邊(2003)は川口の調査以後に作られた日本語教科書4種⁵⁾に対する調査を行ない、川口の調査手順に倣い、各教科書で種々の敬語形式がどの課に出てくるのかを調べた。その結果、川口が示した、敬語の学習項目、解説、練習が「特定の課」に集中し、「特定の課」より前の課では敬語形式がほとんど現われないという初級教科書の特徴は見られないことが報告されている。つまり教科書全体にわたって敬語形式が現われており、敬語指導上、有利な条件を備えているということである。

川口の調査からすでに30年近くたったが、はたして韓国の日本語初級教材において敬語はどのように扱われているだろうか。機能シラバスに基づく中級教科書を除き、最後の課、または最後に近い課で敬語形式が集中的に提出され、解説も練習もその課に集中するという傾向が今も続いているのではないだろうか。

2.3. 韓国の初級日本語教科書における敬語の扱われ方

韓国では大学の教養日本語や専門の初級科目では、各大学の日本語関連学科の教授が執筆、編纂した教科書を使用するのが慣例であるが、市販の教科書が用いられる場合もある。その中には、日本の出版者とライセンス契約を結んで出版されている時事日本語社の『민나도日本語(みんなの日本語/スリーエーネットワーク)』、同じく凡人社との契約による時事日本語社の『文化日本語1~4(凡人社)』などがあり、広く用いられている。また高等學校で第二外国語として教えられている日本語の授業では、現在、第7次教育課程に基づき、教育庁の検定に合格した教科書『高等學校日本語Ⅰ・Ⅱ』が用いられている。高校の日本語教科書での敬語の扱われ方については高橋(2007)の研

5) 『Association for Japanese-Language Teaching Japanese For Busy People I (1984)& II(1990)講談社インターナショナル、文化外国語専門學校『文化初級日本語Ⅰ』『文化初級日本語Ⅱ』(1987)凡人社、Susumu Nagara他『Japanese For Every-one』(1990)、『Tsukuba Language Group Situational Functional Japanese vol.1(1991),vol.2(1992),vol.3(1992)』凡人社

究がある。検定に合格した『日本語Ⅰ』につづき『日本語Ⅱ』のある3種の教科書を対象にして敬語形式、親密体⁶⁾がどの段階で提出されているのか、また文法解説がどのようになされているのかを調査し、待遇表現が現行の高校日本語教科書においてどのように扱われているかについて述べている。

第7次教育課程の教育目標においては、意思疎通能力、文化理解能力の育成が強調されており、文体項目が新設され、場面と相手による適切な表現の使い分けを目標として、丁寧な表現と親し間柄に使用することのできるくだけた表現、口語体と文語体、男性語と女性語などがあること、さらに縮約形式なども取り上げられている。

高橋は敬語形式の扱いはそれぞれの教科書によって異なり、文型中心の教科書では解説欄で敬語表現を文法・文型規則として扱っており、提出段階も初級の後半に集中していると述べている。また待遇表現を語彙や文法、文型として提示するのではなく、意思疎通機能表現として扱っている教科書ではかなり早い段階から待遇表現が出てきてるが、初級の早い段階からバリエーションに富んだ待遇表現の導入が必要だということを指摘している。⁷⁾

一般に韓国の初級教科書は構造(文型)シラバスに基づいていることが多いが、高校の日本語教科書は機能シラバスに基づく構成のものも見られ、たとえば미래엔(ミレエン)出版の『日本語Ⅰ』では目次の次のページで「教室日本語」と題して「じゅぎょうを はじめましょう。」「もう いちど きいてください。」「あとについて いてください。」などの文章が提出されている。また第1課でひらがな・カタカナの導入をしたあと、すぐ第2課で自己紹介の内容で「かんこくからきました。」という動詞の「ます形」による文章が登場する。これは意思疎通能力に力点を置いた教育課程に沿った結果であり、よく使う文を優先して教えるという意図によるものであろう。

しかし全般的に韓国で出版されている初級日本語教科書の多くは文型シラバスに基づいており、どの教科書も最後の課、あるいは最後に近い課で敬

6) 話しことばにおける普通体を親密体と呼んでいる。

7) 高橋万里子, 「日本語教育における待遇表現, 『日本文化研究第22集』, 2007, pp. 348

語形式が集中的に提出されているものが多い。

熊井(1986)は東京外国語大学附属日本語学校編『日本語 I - 試用版-』の敬語的要素を分析し、分析した教科書の問題点を指摘するとともに、より効果的な敬語教育のあり方について論究しているが、分析に当たって、尊敬語・謙譲語などの狭義の敬語だけでなく、敬語を広く人間行動全体の中に位置づける「待遇行動論」の視点に立って、待遇配慮と関わりがあると思われるものを「敬語表現」として拾い出している。

ここで、具体的に韓国で市販されている2種の教科書を取り上げ、熊井の分析方法を参考に待遇の配慮と関わりがあると思われる敬語的要素を「敬語的語彙・表現」と「文型・文法項目」のふたつに分けて、それぞれ教科書の中に出てくるものを抜粋した。教科書は2006年に初版発行、2012年に改訂出版された다락원(タラクウォン)『New다이나믹(ダイナミック)日本語Step1』『New다이나믹(ダイナミック)日本語Step2』各16課、全32課(以下、<ダイナミック>とする)と、2012年にStep1、2013年にStep2、2014年にStep3が初版発行された동양북스(東洋ブックス)『감베레 일본어(がんばれ日本語)Step1』『감베레 일본어(がんばれ日本語)Step2』『감베레 일본어(がんばれ日本語)Step3』各12課、全36課(以下、<がんばれ>とする)である。どちらの教科書も便宜上、通してそれぞれ1~32課、1~36課とした。

<ダイナミック>における敬語的要素の配列

課	敬語的語彙・表現	文型・文法項目
3	よろしくお願ひします お國 どちら	
4	よろしくお願ひします お酒 どちら	
7	お茶 どちら お酒	
8	お酒 ご飯 お手洗ひ	
9	お金	
10	お酒 ご飯	
11	お土産 お金 ご飯 おにぎり お壽司 お好み焼き お弁当	
12	ご飯 おじゃまします	～てください

	ごちそうさまでした	
13	お祖父さん お祖母さん お父さん お母さん お兄さん お姉さん 弟さん 妹 さん おいくつ(年齢) ご飯 お茶	
14	ご飯	
15	ご飯 お土産	
16	どうぞ お酒 お金	~てください
17	おはようございます	普通体 (親密体)
18		~てください
19	おにぎり お茶	
20	お願い お酒 お風呂 お腹	~てください
21	さしあげる くださる いただく お金 妹 さん お父さん 弟さん 息子さん	
22	お金 ご飯 お土産 お皿	~てください
23	お酒	
24	お皿	~てください
25	いらっしゃい	~てください
26	お金持ち	
27	お晝 お酒 お好み焼き お寺	~てくださいませんか 普通体 (親密体)
28	お酒	
30	お子さん おいくつ お父さん ご飯 お酒	
31	尊敬語特殊形式 (いらっしゃる/おいでになる/見える/お見えに なる/召し上がる/ なさる/くださる/おっしゃ る/ ご覧になる/ご存じだ) いらっしゃいませ 何名様 おたばこ お國 お名前 お話 お忙しい お若い お美しい お元氣 お上手 お暇 ご住所 ご家族 ご旅行 ご熱心 ご親切 どなた	お~になる ~れる/られる お~ください ~てください
32	謙讓語特殊形式 (參る/伺う/おる/いただく/ いたす/さしあげる/申す/申し上げる/拝見する/ 存じておる/伺う/おじゃまする/お目にかかる おひさしぶり お元氣 ありがとうございました お体	お~する ご~する お~になる ~ていただく ~ていただけませんか ~てくださる/ください

〈がんばんれ〉における敬語的要素の配列

課	敬語的語彙・表現	文型・文法項目
2	よろしくお願ひします こちら お仕事	
3	お金 お客	
4	お元氣 おかげ	
5	いらっしゃいませ おすすめ お願ひします お茶 お好み焼き	
6	お誕生日 おめでとうございます	
7	お店	
9	どうぞ ありがとうございます	
10	おじいさん おばあさん ご主人 奥さん お父さん お母さん 息子さん 娘さん お兄さん お姉さん 弟さん 妹さん	
12	お酒 おつまみ (すし さしみ)	
14	お酒	
15	お見舞い お茶	
16	お元氣 お久しぶり	
17	お風呂 妹さん お茶 お酒 ご飯	～てください
19	お菓子 お風呂 ごはん おにぎり お好み焼き	
20	お酒 おつまみ	
21	お寺 おすすめ	
22	おしゃべり	
23	お酒	
24		普通体(親密体)
25		～ないでください
26	お土産	
27	お見舞い	普通体(親密体)
28	お酒	
29	お金	
30	お店 お金	
31	授受動詞 (さしあげる/くださる/いただく) お店 お弁当 お名前 お正月 お年玉	～いただけますか ～てさしあげる/くださる/い ただく
32	お皿	～てください
34	おめでとうございます お見合い	～てください

<p>35</p>	<p>尊敬語特殊形式 (いらっしゃる/おいでになる/なさる/おっしゃる/ご 覧になる 召し上がる/くださる/お亡くなりになる/お休みに なる/ご存じだ) 敬讓語特殊形式 (おる/まいる/いたす/申す/拝見する/いただく/さし あげる/うかがう/お目にかかる/存じている/ござる お探し お泊まり ご利用 お名前 お話 お客 お上手 ご住所 ご利用 ご到着 ご朝食 ご結婚 ご連 絡 ご親切 お電話 お宅 お食事 お弁当 お願いします あちら こちらです(でございます) よろしいですか(でしょうか) いかがですか(でしょうか) どなたですか(どちらさまでですか) ございます(ませ ん) かしこまりました 申し譯ございません お二人 あちら</p>	<p>お~ですか(でしょうか) ~ていただけますか ~でございます ~でいらっしゃいます ご~なさる</p>
<p>36</p>	<p>いらっしゃいませ 何名様 こちら ご注文 よろしいでしょうか かしこまりました お水 おかげ お元氣 ありがとうございました</p>	<p>お/ご~になる お/ご~ください お/ご~する(いたす)</p>

分類する上で、「よろしく申し上げます」「申し上げます」は謙讓の敬語形式「お~する」を導入するためのものではなく、単なる慣用的表現として扱われているので敬語的表現に分類した。同じく「おめでとうございます」「ありがとうございます」も「形容詞+ございます」の形式を導入するのではないので、これらも同様に敬語的表現として分類した。

どちらの教科書も構造シラバスに基づいて構成されているが、川口(1987)が指摘しているとおりに敬語形式は敬語的語彙、表現ともに「特定の課」、つまり<ダイナミック>ではStep2の最後の2課に、また<がんばれ>ではStep3の最後の2課に集中していることがわかる。「特定の課」より前の課では敬語形式はほとんど現われないという特徴もその通りであり、その「特定の課」において敬語形式を学ぶ学習者の負担はかなり大きいものと予想される。

「お+名詞」は、かなり早くから現われるが、「お酒」、「お茶」、「お土産」、「お金」、「お店」、「お弁当」など一部の名詞に限られている。また、それらの「お+名詞」は「お」がついていない場合、どれも多少乱暴な印象を与えるものばかりであるが、それに対する説明や、「先生のお手紙」のように敬語の要素の強い「お」との対比などについては説明が見られない。たとえば<ダイナミック>では3課にはじめて「お国」が登場するが、ここでもやはり学生用の教科書には全く説明がない。教師用教科書にのみ青字で「名詞の前に「お」や「ご」をつけて尊敬の意味を表す。例：お名前、ご住所」という説明がある。次の4課では「お酒」が新出語彙として提示されているが、この「お酒」の「お」に尊敬の意味はないが、それに関する説明は教師用の教科書にも見られない。

<がんばれ>では2課の37ページに

A: お仕事はなんですか。

B: 私はモデルです。

というモデル会話が提示されているが、ここで新出単語として「お仕事」の対訳があり、そこに「「お」は相手に対する丁重の意味を表す接頭語」という説明がある。しかし次の3課、50ページに「招き猫の右手はお金の意味です。左手はお客の意味です。」という読解の文章の中で「お客」と「お金」がやはり新出語彙として提出されているが、「お客」「お金」の「お」は相手に対する丁重の意味はないが、それについての説明はない。

また、どちらの教科書も文法・構造などについての簡単な記述があるだ

けで、その形式の機能に関する説明はほとんど見られない。たとえば尊敬語形式「お~になる」に関してみると、「お+ます形+になる」という記述と「~하시다」という韓国語による簡単な対訳があるだけである。〈ダイナミック〉の教師用教科書には青字の韓国語で「動詞ます形を「お~になる」の間にに入れて尊敬表現を作る。尊敬動詞より丁寧度が高いが、寝る、見るのような1音節の動詞や3グループ動詞には使えない。尊敬の特別動詞がある動詞は特別動詞を使う。」という説明があるが、学習者用教科書には説明がない。教師の適切な説明が与えられなければ、意味と形式はだいたい理解できても機能についてはほとんど理解ができないものと予想される。

会話普通体(親密体)は〈ダイナミック〉では17課(Step2第I課)に、〈がんばれ〉では27課(Step3第3課)で初出しており、親しい間柄では「です・ます体」ではなく普通体を使って対話することが示されている。最近、インターネットの発達とともに、アニメーションやドラマなどを通して日本語を耳から学ぶ学習者が増え、普通体や会話独特の表現に慣れ親しんでいるため、「です・ます体」との区別をはっきりとさせながら、普通体の提示を行なう必要がある。しかし反対に学習者の学習レベルが相当上がっているにもかかわらず、文章を書かせると話しことばのまま書くケースも目につき、話しことばと書きことばの使い分けも初級のときから段階的に行なわれる必要があるものと思われる。

最初に述べたように韓国語にも敬語があり、また日本語のような文体の区別もあり、他国の学習者に比べれば韓国人学生の待遇表現に対する理解は早い。しかし絶対敬語を用いる韓国語の母国語話者が謙讓表現を理解し、使い分けるのは決して容易なことではない。

単に構造シラバスによる教科書に従って形式だけを指導するとすれば、規則や形式の複雑な敬語の導入は当然後回しにならざるをえない。また日本語能力試験の合格だけを考えた場合、敬語形式にそれほど熟達していなくても問題がない。そのため日本語能力試験N2、N1に合格していても、それらの学習者が適切に待遇表現を理解し、活用できる能力があるとは言い切れないのである。

3. 初級日本語修了者の待遇表現の運用力

3.1. 調査

初級を修了し、日本語能力試験N1またはN2に合格している学生の待遇表現の運用力を調べるために、筆者の担当科目を受講している2・3年生のうち、N2に合格している16人、N1に合格している5人、合計21人の韓国人学生を対象に韓国人が母国語の干渉を受けやすいと思われる3つの場面を設定し、アンケート調査を行なった。どれも相手は大学の先生で、それぞれ希望や願望をたずねる、ねぎらいを言う、誉めを言うという三つ場面で、内容は以下の通りである。

1. 学科の事務室で何人かの学生がジュースを飲んでいるときに先生が入って来られました。ある学生が「교수님! 교수님도 시원한 음료 드시고 싶으세요?(先生!先生も冷たいものが召し上がりたいですか?)」と尋ねましたが、先生にこのように尋ねることが適切だと思いますか。適切ではないと思うなら、どのように尋ねたらいいですか。また、あなたなら同じ状況で日本人の先生に日本語でなんといいいますか。

2. 先生の講義時間が終わりました。ある学生が「교수님! 수고하셨습니다.(先生、おつかれさまでした。)」と言いましたが、先生にこのように言うことが適切だと思いますか。適切ではないと思うなら、どのように言ったらいいですか。また、あなたなら同じ状況で日本人の先生に日本語でなんといいいますか。

3. 先生の講演が終わりました。ある学生が「교수님! 오늘 강연이 너무 좋았습니다.(先生、今日の講演とてもよかったです。)」と言いました。先生をこのように誉めることが適切だと思いますか。適切ではないと思うなら、どのように言ったらいいですか。また、あなたなら同じ状況で日本人の先生に日

本語でなんといいますか。

適切であるかどうかは、「大変適切だ」・「適切だ」・「特に問題はない」・「適切ではない」・「大変適切ではない」、という5つの選択肢から選んでもらった。

3.2. 調査の結果

3.2.1. 相手の希望や願望を尋ねる場合

まず1番の先生の願望をたずねる設問では「適切」が1人、「特に問題ない」が6人、「適切でない」が13人、「大変適切でない」が1人であった。『敬語表現ハンドブック』(2009)によれば、「召し上がりたいですか」は敬語の形や「召し上がる」の敬語的性質の点では問題がないが、違和感を覚える人が多く、その理由として「~(し)たいですか」という表現に問題があること指摘している。「~(し)たいですか」を使うと相手(コミュニケーション主体)の心の内部、私的な部分である意思、願望について直接的に尋ねることになるため失礼に感じられる⁸⁾のである。相手が上位、下位、また話題がプライベートであるかどうかに限らず、能力、意思、希望や願望などに触れることは、相手の心の内部や私的な部分に踏み込むことになるためである。このような心的部分は韓国人の場合も同様で、「드시다」という敬語的性質には問題がないが、相手の願望について直接的に触れる点で違和感を感じているようである。したがって(大変)適切ではないと答えた学生が66.6%で過半数を越えたものと思われる。しかし、特に問題ないと答えた学生も30%を越え、目上の人に希望・願望を尋ねるときには、その表現が不適切なものとなる可能性が高い。適切でないと答えた14人の学生が代わりに示した回答は以下の通りである。

8) 蒲谷宏・金東奎・高木美嘉, 『敬語表現ハンドブック』, 大修館書店, pp. 64

드시겠습니까(드시겠어요)? (召上がりますか)	5人
어떻습니까(어떠세요・어떠신가요)? (いかがですか)	3人
드려도 되겠습니까? (さしあげてもよろしいですか)	2人
드릴까요? (さしあげましょうか)	2人
드셔보세요 (めしあがってみてください)	1人
드시겠습니까?	1人
	計14人

日本人の先生に対する回答は以下の通りである。

(一杯・飲み物 etc) いかがですか。	10人
飲みませんか。	3人
飲み物どうですか。	1人
飲んでいただきませんか。	1人
召上がりますか。	1人
だいじょうぶですか。	1人
さしあげましょうか。	1人
無答	3人
	計21人

日本人の先生に対しては「いかがですか」を書いた学生は、韓国語で「召上がりたいですか。」が適切だと答えた7人の学生のうち3人を含めた10人で、47.6%が適切な表現をしている。「召上がりたいですか。」という回答はひとつもなかったが、「召上がりますか」も先生に勧めるというより、先生の意味を尋ねるために不適切であり、「飲みませんか」は敬語表現も不適切である。「どうですか。」もやはり敬語表現が不適切であり、「さしあげましょうか。」は「さしあげる」という敬語的表現には問題ないが、「召上がりますか。」と同様に先生の意味を問うことになり、目上の場合には相手を配慮して勧めるのがふさわしいので、これもまた不適切である。

特に目上の人に希望や願望を尋ねる場合は直接尋ねることは相手の私的心的部分に触れることになり、失礼に感じられるので、「いかがですか」や「先生もどうぞ」などの表現を使うような指導が必要だと考えられる。文型

「～たい」は<ダイナミック>ではStep1の11課、<がんばれ>では26課(Step2の2課)で初出しており、動詞のます形の導入されたあとにその活用として提示されることが多い。このときに、日本語で相手の意思や願望をたずねることは相手に失礼と感じさせることが多いということを指導したり、教科書のその段階で「いかがですか」という文章の提示も必要なのではないかと考えられる。

3.2.2. 相手をねぎらう場合

2番目のねぎらいをいう設問では「大変適切」が2人、「適切」が7人、「特に問題ない」が9人、「適切でない」が3人であった。韓国語の「누고하셨습니다。」は適切でないと答えた3人を除いて、目上の人にもねぎらい表現を使うことができると捉えていることがわかる。『敬語表現ハンドブック』(2009)には「ご苦労さま」と「お疲れさま」に関して、「ご苦労さま系」の表現(ご苦労、ご苦労さん、ご苦労さま、ご苦労さまでした、など)は配達をしてくれた店員など自分のために仕事をしてくれた人に対してねぎらいの気持ちをこめて使うのが典型的で、「お疲れさま系」(お疲れ、お疲れさん、お疲れさま、お疲れさまでした、など)は一緒に作業や仕事をした仲間同士がお互いにねぎらい合うときに用いられる表現だとしている。したがって日本語では目上の人に対して、その行為をねぎらうこと自体が問題であって、ねぎらいではなく感謝という観点で捉えるほうが適切だとも述べられている。⁹⁾

学生たちが日本人の先生に対してなんというかという設問には、「お疲れさまです」「お疲れさまでした」と書いた学生が12人、「ごくろうさまでした」は2人、「ありがとうございます。」が4人、無答が3人だった。これは韓国語の待遇表現の母語干渉だと見ることができるであろう。

<ダイナミック>にも<がんばれ>にも「ごくろうさまでした。」「おつかれさまでした。」という表現は出てこない。しかし教養科目などで初級の学

9) 蒲谷宏・金東奎・高木美嘉, 『敬語表現ハンドブック』, 大修館書店, pp. 71

生を教えていると、「韓国語の「수고하셨습니다」を日本語でなんと言ったらいですか。」という質問をよく受ける。それに対して「ごくろうさまでした」や「おつかれさまでした」と答えれば、すぐその場で「先生、ごくろうさまでした。」とあいさつしてくるので、その折には必ず先生には「ありがとうございました」と感謝の表現を使うように指導している。ねぎらい表現の使い方が韓国語と日本語では異なることを早い時期に指導することも必要だと思われる。

3.2.3. 相手を誉める場合

3番目の誉めをいう設問では「大変適切」が2人、「適切」が8人、「特に問題なし」が7人、「適切でない」が4人であった。これは、大部分の学生がねぎらい表現と同様に「강연이 너무 좋았습니다.」と目上の人に対して誉めの表現を用いることに問題を感じていないということを示している。『敬語表現ハンドブック』(2009)によれば、ある能力や技術をほめるには、それが評価できる立場にいなければならず、誉める相手より知識、能力、講演の技術などが優れているということではなければならない¹⁰⁾とある。つまり日本語では評価する主体が学生や専門家でない場合には、教授の講演を評価すること自体が不適切なものになってしまうため、表現に工夫が必要となるのである。

以下は講演をした日本人の先生に対してどうかを聞いた質問に対する答えである。

ありがとうございました(ます)	8人
とても勉強になりました	1人
とても有益な講義でした	1人
理解しやすかったです	1人

10) 蒲谷宏・金東奎・高木美嘉, 『敬語表現ハンドブック』, 大修館書店, pp. 72

おかげでいろいろなことがわかりました	1人
とてもいい時間になりました	1人
とても気に入りました	1人
とても(すごく)よかったです。	5人
最高でした	1人
すばらしかったです	1人
見事でした	1人
素敵でした	1人
お疲れ様です	1人
無答	2人
	計26人

* 重複回答あり

感謝の気持ちを伝える表現を使った学生が14人、誉め表現を使った学生が10人、ねぎらい表現を使った学生が1人であった。また「ありがとうございました」と重複して他の感謝表現を使った学生が4人、ほめの表現を重複して使った学生が1人であった。「ありがとうございました」を使わず、誉め表現だけを使った学生は9人で、約半数が誉め表現を用いている。もちろん講演した先生との心的距離もあるだろうし、よりよいコミュニケーションを行なうために率直なほめ表現が効果的である場合もあるだろう。しかし、安易に評価することが、相手に失礼な印象を与えかねないという点は初級の段階から指導しなければならない。

調査の対象とした学生の数が限られており、また場面も多様ではないが、単なる形式の積み重ねからでは適切な待遇表現を選択することはできないということがわかる。

4. 結語

以上のように、日本語能力試験の結果が待遇表現を含んだ日本語の運用能力の是非を表すものではなく、待遇表現の適切な指導が必要であることが

わかる。また相手との関係性が幅広くなり、複雑化する社会の中で、場面に即応した表現をしていくためには、初期のころから日本語の待遇表現が韓国語とは異なることを明確に意識づけることが大切だと思われる。

韓国では大学生にとって就職が大きな目標であり、そのために日本語を学ぶ学生も多い。日系企業や日本での就職を目的とするなら、ビジネスの場面では助詞の誤りから待遇表現にいたるまで、ネイティブレベルの正確さを求められることが多い¹¹⁾といわれている。しかし大学によって多少の違いはあるだろうが、就職という名目で日本語を主専攻としながら複数専攻、副専攻科目を履修する学生が増え、それと同時に3年次以降の科目が閉講となるケースも出てきている。当然、主に待遇表現や敬語を中心にビジネスレターの書き方やビジネスコミュニケーションなどを学ぶビジネス科目は3年次以降に設置されるので、履修しない学生も多い。

しかし先にも述べたように重要なのは敬語・待遇表現の指導は中級からという考え方から初級の初期からという指導側の意識の転換である。そのために、敬語表現形式も最後に集中させるのではなく、初期のころから学べるように、多くの場面設定の中で待遇表現を学ぶことのできる教材の開発が必要だと考えられる。

たとえば、希望・願望の「～たい」を導入する場合に、自分の希望や願望を述べるばかりでなく、相手の希望を問う場面を、相手が友達の場合、先生の場合などに分けてモデル会話を提示するような工夫が必要である。また、ます形の導入とともに、動詞「なる」が導入されれば、その段階で尊敬形式の「お+ます形+になる」や謙讓形式の「お+ます形+する」を提示するのもひとつの方法だと考えられる。

今回の調査には含めなかったが韓国語の「～하세요」など勧めの表現も、「～てください。」に置き換えるケースが多く、「～てください」の導入段階で「お+ます形+ください」という敬語形式も一緒に導入し、表現の違いを提示する必要があるのではないだろうか。

11) 池田伸子、「留学生の就職を支援するための実践的日本語教育について」、『ことば・文化・コミュニケーション』創刊号, 2009, pp. 141

日本では日本語で学ぶ留学生のみならず、母国で日本語を学ぶ外国人を日本企業の人材として有効に活用して行こうとする動きが見られる。そのような動きに対応し、大学でも適切な待遇表現の指導がますます重要視される時を迎えている。教材開発のみならず、既成の教材を活用しながら、待遇表現にポイントを当てた授業の工夫が必要なのではないだろうか。

[ABSTRACT]

Japanese Education of Beginner's Course in Korea and
Expression of Politeness

Moriya, Misako

Education of the Japanese expression of formalities is the education with regard to all language behavior including polite expressions, polite behavior, habits, and greetings as well as the way of using honorifics for smooth and natural human communications.

Korean Language and Japanese Language are very similar in sentence structure, so Korean students acquire Japanese language more quickly than other foreigners. However the interference of the mother tongue produces misunderstandings easily, especially in formalities and honorifics.

In this paper I indicate the problems with the education of the expression of politeness focusing on the usage of honorifics in the beginner's course Japanese textbook. Then I also bring up the incompetence of the students who completed a beginner's course on the basis of a questionnaire survey analysis conducted toward the students who have passed the Japanese Proficiency Test N1 and N2 level.

Teaching Japanese expressions of politeness should not be made a priority after the intermediate level, but should be done at the first stage of the beginning level. And for that, development of teaching materials of the teaching methods should be required.

Key words : expression of politeness, honorific, Korean Japanese learner, beginner's Japanese course, textbook, communication, Japanese proficiency test

参考文献

□ 単行本

- バルバラ・ピッツィコーニ, 『待遇表現から見た日本語教科書』, くろしお出版, 1997, pp. 112-185.
- 国立国語研究所, 『日本語教育参考書17 敬語教育の基本問題(上)』, 大蔵省印刷局, 1998, pp. 5-18.
- 蒲谷宏・金東奎, 高木美嘉, 『敬語表現ハンドブック』, 大修館書店, 2009, pp. 3-73
- 日本語教育学会編, 『新版日本語教育事典』, 제이앤시, 2006, 198면.
- 田窪行則編, 『視点と言語行動』, 筑摩書房, 1997, pp. 45-74.
- 水谷修編, 『話しことばの表現』, 凡人社, 1983, pp. 129-152.

□ 論文

- 최은경·이인화·남궁혜남·김혜진, 「의사소통 능력 향상을 위한 한국어 통합교재 단위 구성 전략 분석-초급 교재를 중심으로」, 『국제언어문학』 제32호, 국제언어문학회, 2015, 203-229면.
- 최현탁, 「Communication strategies-in terms of proficiency, L1 background and personality」, 『국제언어문학』 제20호, 국제언어문학회, 2010, 242-266면.
- 池田伸子, 「留学生の就職を支援するための実践的日本語教育について」, 『ことば・文化・コミュニケーション』創刊号, 2009, pp. 131-141
- 蒲谷宏・北條淳子・小出美河子・新居田純野・久光直子・深田嘉昭, 「「文型」をめぐる問題点」, 『講座日本語教育』 第30分冊, 早稲田大学日本語教育センター, 1995, pp. 34-47.
- 川口義一, 「日本語初級教科書における敬語の扱われ方」, 『日本語教育』61号, 1987, pp. 126-139.
- 川口義一, 「初級日本語課程の『教室の文脈』における「待遇コミュニケーション教育」」, 『早稲田日本語教育学』第11号, 2012, pp. 37-50.
- 熊井浩子, 「日本語初級教科書における敬語的要素の分析と敬語分類に関する一考察」, 『日本語学校論集』13, 1986, pp. 49-64.
- 高橋万里子, 「日本語教育における待遇表現-高校日本語教科書での扱われ方を中心に-」, 『日本文化研究』 第22輯, 東アジア日本学会, 2007, pp.329-349.
- 田中道治, 「初級日本語教育と待遇表現」, 『人文社会学紀要』, 富山国際大学, 2003, pp. 61-72.

渡邊裕子, 「日本語初級教科書における敬語の扱いについての一考察」, 『学校教育学研究』,
第6巻, 1994, pp. 15-23

이 논문은 2016년 11월 4일 접수되어 12월 6일까지 심사받아 12월 19일 게재 확정됨.

